

## 技術2年「情報」 O.K教諭

### 「プログラミング教育」の可能性とその中心

- コンピュータを理解し上手に活用していく力を身に付けることは、将来どのような職業に就くとしても極めて重要なこと。
- プログラミングの能力を開花させ、創造力を発揮して、起業する若者や特許を取得する子供も現れており、障害のある子供たちも含め、将来の社会で活躍できるきっかけとなる。

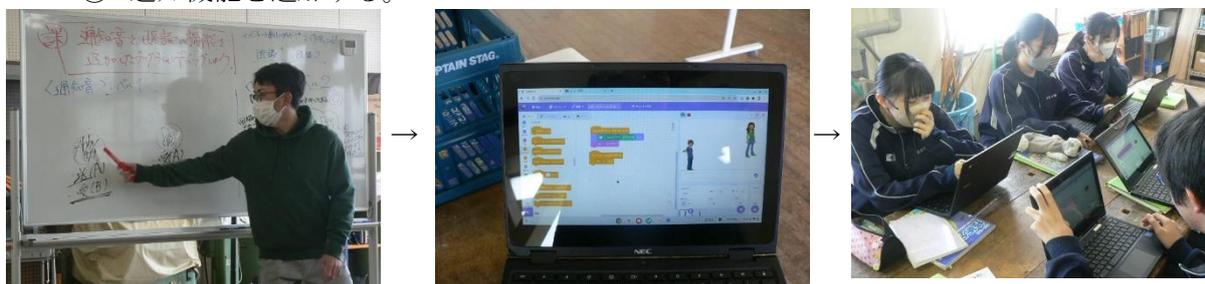
中学校では、「計測・制御のプログラミング」に加え、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング」について学ぶとあり、本時はこれに当たる。

通知と既読という身近な機能を追加（課題設定）し、適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグをできるようにすることがねらい。

### 【授業の流れ】

(1) 学習課題「通知と既読の機能を追加したチャットアプリにデバッグしよう。」

① 通知機能を追加する。



教師の説明を受け、楽しそうに、指示を入力する生徒。

② 既読機能を追加する。



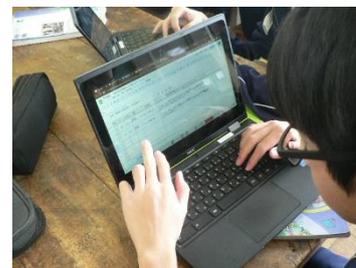
生徒は日頃 LINE で親しんでいるものの、既読機能をプログラミングするのはなかなか難しいものであった。しかし、課題の難易度は適切であり、逆に生徒は授業の最後まで集中力を切らすことなく、粘り強く取り組んでいた。ヴィゴツキー「発達の最近接領域」職員会議 10月再掲



課題と向き合う生徒



送信と受信がいるため、自然と「対話的な学び」が実現する。



振り返りはスプレッドシートに、毎時間積み重ねている。



ITC 支援員のサポート

※生徒の取組を常に励ましながら授業展開していた。